



札幌市議会議員 厚別区

こじま ゆみ

小学生以下の子どもの医療費助成を拡充

札幌市は、子育て世帯の経済的な負担を軽減するため、小学生以下の子どもの医療費助成について、**所得制限を撤廃**することに決めました。

現在は、保護者の所得によって助成の対象外となる場合がありますが、制度の見直しにより、所得にかかわらず、小学生以下の子どもが助成を受けられるようになります。

実施は **2027年(令和9年)8月**からの予定で、新たに約5万人(未就学児約3万5,000人、小学生約1万5,000人)が助成の対象となる見込みです。

また、初診時にかかる一部負担金についても見直し、子どもの医療費負担をさらに軽減します。

今回の見直しは、北海道の制度改正に歩調を合わせて実施されるものです。子どもたちが安心して必要な医療を受けられる環境を整えるため、今後は小・中学生の入院医療費も含め、所得制限の撤廃が実現するよう、引き続き求めてまいります。



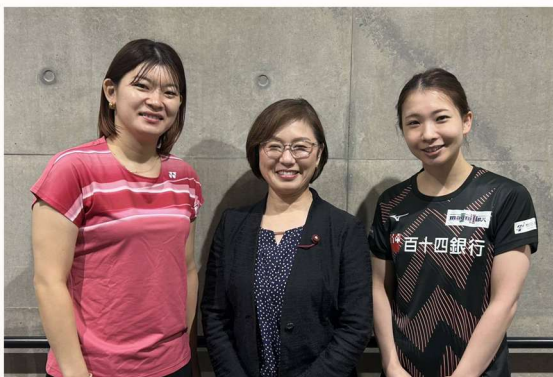
リオ五輪金メダリスト「タカマツペア」が札幌でバドミントン教室！

10月3日、「みんなでチャレンジアカデミー」に参加しました。今回は、リオデジャネイロ五輪女子ダブルス金メダリストの「タカマツペア」を迎えたバドミントン教室が、北ガスアリーナ札幌46で開催されました。

ラケットの握り方やシャトルの打ち方など、基本動作から丁寧に指導され、お二人が子どもたちに笑顔で声をかけながら、分かりやすくアドバイスされていた姿が印象的でした。

子どもたちにとって世界の舞台で活躍された選手から直接学べる、大変貴重な機会となりました。

スポーツを通じて、子どもたちが新しいことに挑戦する楽しさや、夢を持つことの素晴らしさを感じられる機会を、これからも大切にしていきます。



高橋礼華さん

松友美佐紀さん



カーリング3団体が新施設整備の着実な推進を希望

10月7日、公益社団法人日本カーリング協会、一般社団法人北海道カーリング協会、一般社団法人札幌カーリング協会の3団体を代表し、札幌カーリング協会の岡崎朋美会長が、秋元克広札幌市長に「(仮称)新スケート・カーリング場整備事業」の着実な推進を求める要望書が手交されました。

要望書では、近年の日本代表チームの活躍などにより、カーリングへの関心が全国的に高まっていることを踏まえ、競技の普及やジュニア世代の育成、指導者の養成、大会・合宿の開催など、札幌市に期待される役割が一層大きくなっていることを説明しました。

また、新施設については、カーリングやスケートをはじめとする冬季スポーツの拠点と

して、子どもから高齢者まで、幅広い市民が利用しやすく、誰もが冬季スポーツに親しめる「開かれた施設」とすることを要望しました。さらに、競技力の向上や次世代アスリートの育成、将来の国際大会開催にもつながる施設として、事業の着実な推進を求めました。



3団体は、カーリングのさらなる普及・発展と、冬季スポーツ都市・札幌の未来を担う子どもたちの夢を育む環境づくりに向け、新施設の整備に大きな期待を寄せています。

子どもたちが安心して野球に取り組める環境の整備

札幌市が所有する少年野球場の一部で、施設内の物置やトイレ、屋根付きベンチなどについて、建築基準法上の手続きや対応が必要となっていました。

札幌市は関係団体などと協議を進めており、一時撤去しているダッグアウトなどは、本年10月末までに再設置できる見通しとなりました。また、不要な建築物の撤去や再設置にかかる費用は札幌市が負担します。

子どもたちが安心して少年野球に親しみ、健全に成長できる環境を一日も早く整えられるよう、引き続き取り組んでまいります。

